

スーパーマーケット販売統計調査資料

5 月実績 速報版(パネル 270)

4 月実績 確報版(パネル 270)

(2020 年 6 月 22 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インストアベーカリー、ファーストフード	
		日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム	
		一般食品	調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類	
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側（宗谷南部）、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側（網走・北見・紋別地方）、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2020年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年5月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	100,097,962	100.0%	111.3%	109.8%
食品合計	91,021,820	90.9%	112.6%	111.0%
生鮮3部門合計	35,616,306	35.6%	116.7%	115.1%
青果	14,571,660	14.6%	117.9%	116.3%
水産	8,725,849	8.7%	111.5%	110.0%
畜産	12,318,797	12.3%	119.2%	117.5%
惣菜	9,069,692	9.1%	98.7%	97.8%
日配	20,104,261	20.1%	113.9%	111.8%
一般食品	26,231,561	26.2%	111.6%	110.0%
非食品	6,692,456	6.7%	103.7%	102.5%
その他	2,383,739	2.4%	92.6%	94.1%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	13,946,166	43	112.0%	110.3%
関東地方	37,778,945	73	113.3%	112.4%
中部地方	12,600,311	53	114.1%	111.1%
近畿地方	20,692,390	44	107.9%	106.8%
中国・四国地方	10,033,004	34	111.7%	110.7%
九州・沖縄地方	5,047,145	23	104.0%	102.2%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	753,675	47	107.1%	110.0%
4～10店舗	4,778,286	78	108.7%	109.6%
11～25店舗	11,219,690	58	112.8%	111.1%
26～50店舗	17,335,383	43	110.8%	110.1%
51店舗以上	66,010,927	44	111.3%	109.5%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	97,985,529
総店舗数（店舗）	8,024	店舗平均月商（万円）	12,475
総売場面積（㎡）	13,352,068	売場1㎡あたり売上高（万円）	7.5

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2020年6月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2020年4月実績 確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	98,240,120	100.0%	112.3%	110.7%
食品合計	89,757,654	91.4%	114.2%	112.4%
生鮮3部門合計	34,456,541	35.1%	116.4%	114.6%
青果	14,117,962	14.4%	117.5%	115.8%
水産	8,177,279	8.3%	108.9%	107.1%
畜産	12,161,300	12.4%	120.9%	118.9%
惣菜	8,772,073	8.9%	96.3%	95.1%
日配	19,920,740	20.3%	116.7%	114.6%
一般食品	26,608,300	27.1%	116.6%	114.8%
非食品	5,863,584	6.0%	98.2%	94.9%
その他	2,618,895	2.7%	89.7%	91.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	13,253,660	43	110.1%	108.5%
関東地方	37,339,996	73	115.7%	114.3%
中部地方	12,122,191	53	113.2%	110.8%
近畿地方	20,793,622	44	109.7%	108.6%
中国・四国地方	9,735,090	34	110.6%	109.6%
九州・沖縄地方	4,995,560	23	102.3%	100.7%

保有店舗数別集計

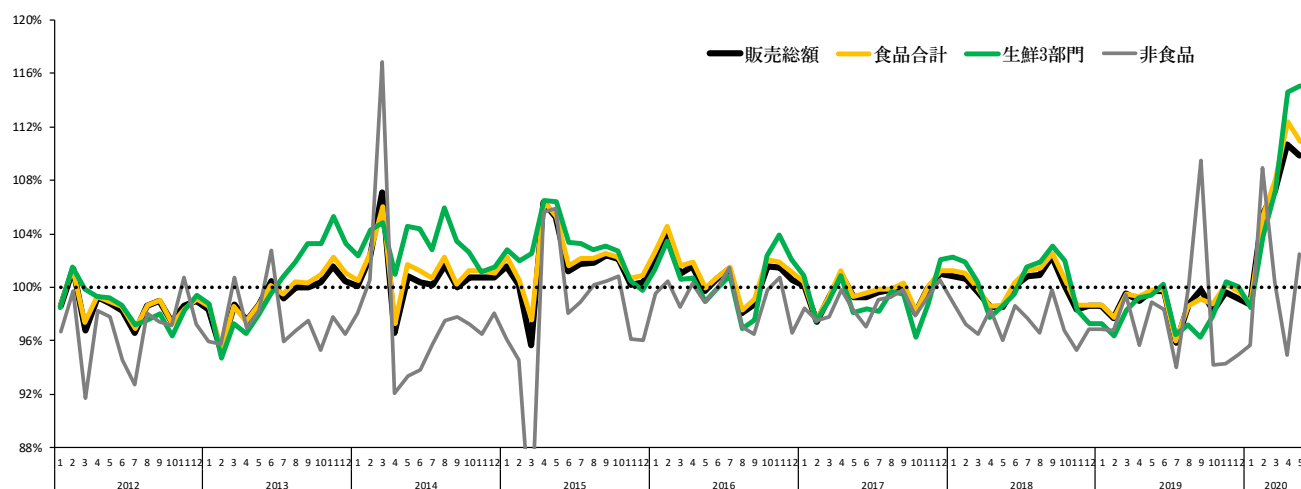
保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	731,216	47	106.5%	108.2%
4～10店舗	4,729,339	78	109.1%	110.0%
11～25店舗	10,873,649	58	112.5%	110.9%
26～50店舗	16,849,434	43	110.5%	108.9%
51店舗以上	65,056,483	44	112.9%	111.2%
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）		95,967,245
総店舗数（店舗）	8,023	店舗平均月商（万円）		12,245
総売場面積（㎡）	13,392,006	売場1㎡あたり売上高（万円）		7.3

※売上高は税抜金額

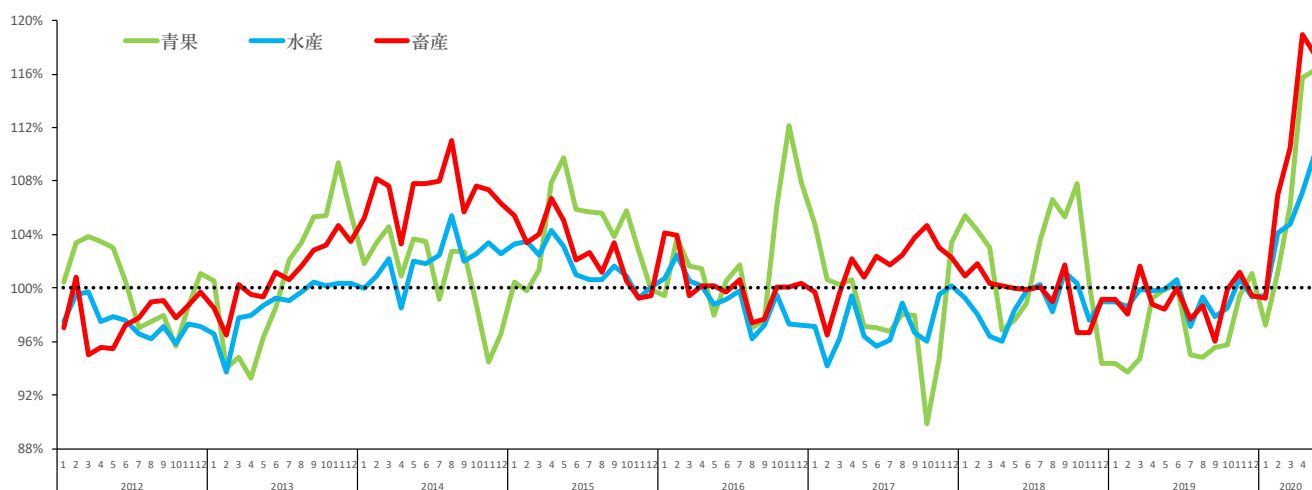
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

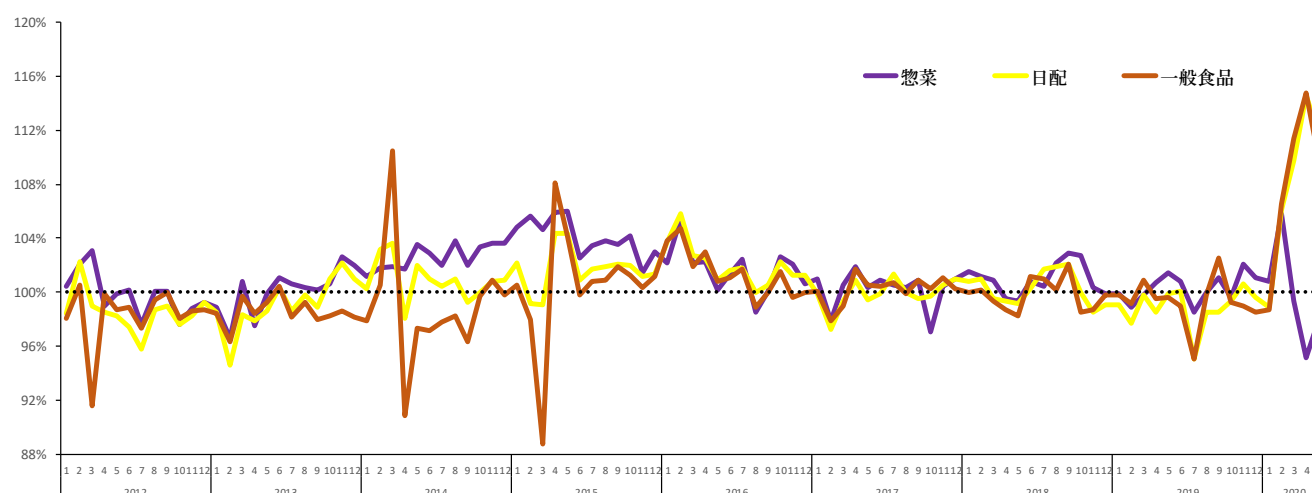
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2020年5月実績は速報値

2020年5月エリア別気候状況

気温の特徴：気温は全国的に高く、北・東・西日本でかなり高かった

上旬：北・西日本でかなり高く、東日本と沖縄・奄美で高かった。

中旬：東日本でかなり高く、西日本と沖縄・奄美で高かった。

下旬：北・東日本、沖縄・奄美で高かった。

2019年5月との比較：上旬は東日本や西日本でやや高く、中旬以降は北日本を中心に前年と比べてかなり低くなった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2020年5月			2019年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	2.0	0.4	0.6	1.1	2.6	4.1	0.9	-2.2	-3.5
太平洋側	2.7	0.3	1.1	1.9	1.5	4.5	0.8	-1.2	-3.4
東日本 日本海側	1.3	1.4	0.8	-0.2	2.5	2.6	1.5	-1.1	-1.8
太平洋側	1.5	2.0	0.9	0.0	1.5	2.2	1.5	0.5	-1.3
西日本 日本海側	1.6	1.1	0.5	-0.3	2.6	1.5	1.9	-1.5	-1.0
太平洋側	1.3	1.2	0.7	-0.5	1.8	1.3	1.8	-0.6	-0.6
沖縄・奄美	1.1	0.7	0.5	-0.7	1.1	0.0	1.8	-0.4	0.5

平年差



前年差



日照時間の特徴：沖縄・奄美で少なかった。

上旬：北日本日本海側で少なかった。

中旬：東日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なかった。

下旬：北日本で多かった。一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。

2019年5月との比較：北日本や東日本を中心に前年に比べ少ない日照時間となった。

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2020年5月			2019年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	89	93	113	121	187	133	-32	-94	-20
太平洋側	97	89	114	135	157	143	-38	-68	-29
東日本 日本海側	97	93	112	157	175	142	-60	-82	-30
太平洋側	106	123	91	139	129	132	-33	-6	-41
西日本 日本海側	107	103	106	151	117	137	-44	-14	-31
太平洋側	108	114	102	138	107	132	-30	7	-30
沖縄・奄美	95	76	76	69	74	156	26	2	-80

平年差



前年差



降水量の特徴：東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側で少なかった。

上旬：沖縄・奄美でかなり多かった。一方、北日本太平洋側と東・西日本で少なかった。

中旬：沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本で多かった。

下旬：西日本日本海側でかなり少なく、東日本と北・西日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多かった。

2019年5月との比較：中旬は全国的に降水量がかなり多く、下旬は前年に比べかなり少なくなった。

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2020年5月			2019年5月（前年）					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本 日本海側	103	81	93	99	9	91	4	72	2
太平洋側	57	108	62	82	14	145	-25	94	-83
東日本 日本海側	29	74	39	39	29	148	-10	45	-109
太平洋側	59	128	38	47	37	189	12	91	-151
西日本 日本海側	74	142	22	12	42	53	62	100	-31
太平洋側	45	176	32	22	136	64	23	40	-32
沖縄・奄美	195	207	136	108	178	63	87	29	73

平年差



前年差



気象庁報道資料「5月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2020 年 6 月調査結果（5 月実績）
（2020 年 6 月 22 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに前月水準で推移

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI現状判断は、前月から-1.9の52.7、見通し判断は前月から-2.3の36.2となり、共にほぼ前月水準で推移し、現状判断は高水準を維持した。

経営動向調査では、4月とほぼ同様の傾向が継続している。売上高DI、収益DIは共に小幅に上昇し20台を記録した。買物頻度の抑制により来客数DIは低下したものの、食品需要の高まりや特売の自粛などで客単価DIは高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、中食需要の減少に加え、行楽や行事の中止、バラ売り販売の自粛の影響があった惣菜カテゴリーDIのみがマイナスとなった。在宅時間の増加により手作り（調理）需要が増加しており、それ以外のカテゴリーDIは二桁のプラス値となった。マスクや衛生用品、家庭用品が好調な非食品DIも引き続き高水準を記録した。

景況感調査は、景気判断DIや消費者購買意欲DIの現状判断が高水準を維持する一方で、見通し判断については悪化が継続している。その一方で、店舗周辺地域景気判断DIは下げ止まり、落ち着きもみられてきた。（長期傾向についてはp11参照）

中旬以降緊急事態宣言が解除され、学校再開や在宅勤務の緩和などポストコロナの生活がスタートした。感染拡大の予防対策、外出自粛緩和による在宅時間の減少が食品需要に及ぼす変化への対応など、生活インフラとして業界に対する注目や要望はこれまで以上に大きくなると予想される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：52.7 (-1.9)
前月：54.6

消費者購買意欲DI
当月：62.7 (-6.4)
前月：69.1

周辺地域 競合状況DI
当月：48.5 (+1.6)
前月：46.9

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：42.2 (+2.6)
前月：39.6

見通し判断

景気判断DI
当月：36.2 (-2.3)
前月：38.5

消費者購買意欲DI
当月：42.1 (-7.2)
前月：49.3

周辺地域 競合状況DI
当月：42.7 (-0.9)
前月：43.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：34.4 (+0.9)
前月：33.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：25.8 (+1.5)
前月：24.3

客単価DI
当月：32.7 (+1.7)
前月：31.0

来客数DI
当月：-9.7 (-8.0)
前月：-1.7

収益DI
当月：26.5 (+4.3)
前月：22.2

販売価格DI
当月：11.3 (+1.1)
前月：10.2

生鮮品仕入原価DI
当月：8.4 (-1.3)
前月：9.7

食品仕入原価DI
当月：6.8 (-3.1)
前月：9.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：30.6 (-0.2)
前月：30.8

水産DI
当月：20.5 (+7.2)
前月：13.3

畜産DI
当月：32.4 (-2.2)
前月：34.6

惣菜DI
当月：-9.9 (+8.4)
前月：-18.3

日配DI
当月：28.2 (-1.3)
前月：29.5

一般食品DI
当月：22.8 (-5.9)
前月：28.7

非食品DI
当月：21.5 (-1.1)
前月：22.6

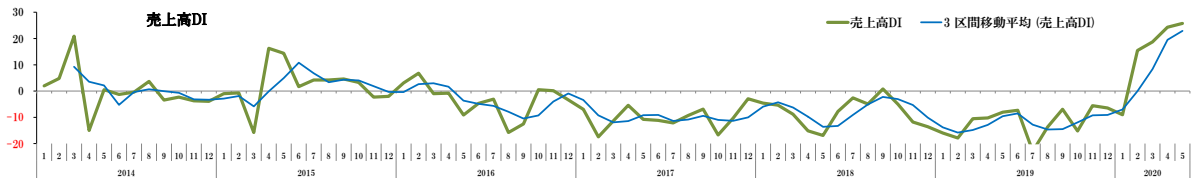
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高 DI

前月から小幅に上昇、引き続き大幅なプラス値を維持

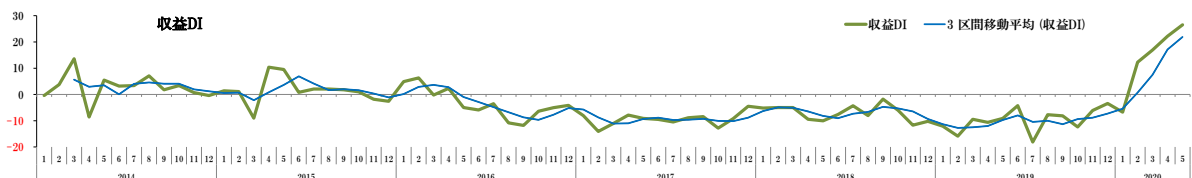
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	7.7	8.2	6.0	35.5	42.6	24.3
売上高 (当月)	6.1	5.5	9.8	36.6	42.1	25.8



2. 収益 DI

前月から上昇し、引き続き大幅なプラス値を維持

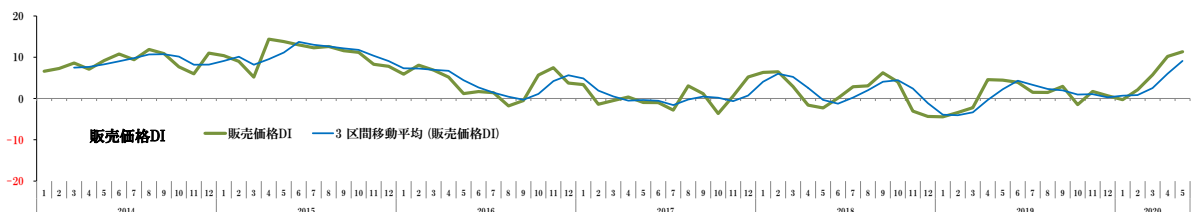
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	6.1	8.4	11.7	38.0	35.8	22.2
収益 (当月)	4.3	5.6	10.5	38.9	40.7	26.5



3. 販売価格 DI

前月から小幅に上昇し、二桁プラスが継続

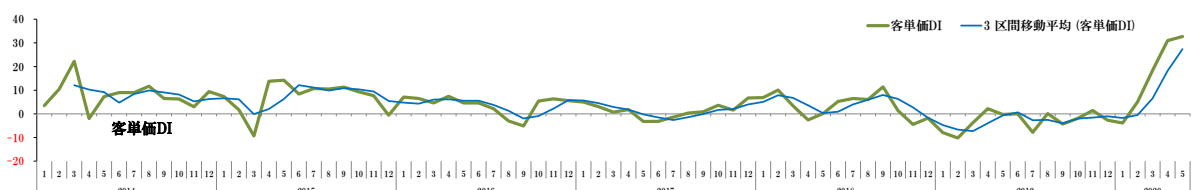
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	3.9	55.2	34.8	5.5	10.2
販売価格 (当月)	0.6	3.1	55.2	32.5	8.6	11.3



4. 客単価 DI

前月から小幅に上昇し、引き続き大幅なプラス値を維持

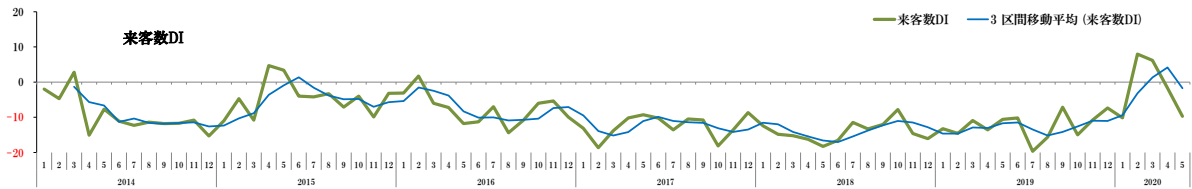
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	4.4	7.8	45.0	42.2	31.0
客単価 (当月)	0.6	4.9	7.4	37.0	50.0	32.7



5. 来客数 DI

当月下落し、マイナス幅を拡大

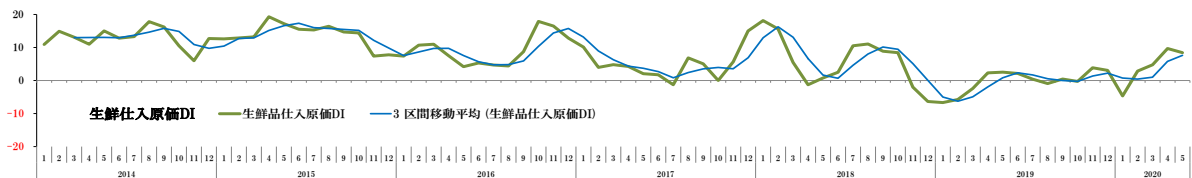
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.6	30.2	23.5	26.8	8.9	-1.7
来客数 (当月)	19.8	30.9	22.8	21.6	4.9	-9.7



6. 生鮮仕入原価 DI

プラス幅縮小も、5 か月連続でプラス圏を維持

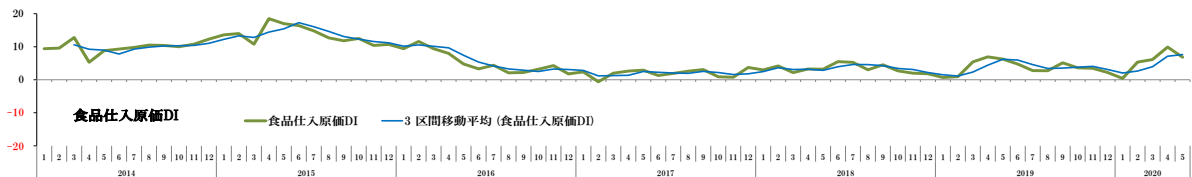
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	10.1	46.6	33.1	9.0	9.7
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	9.4	53.1	29.4	7.5	8.4



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	2.8	62.0	25.7	8.9	9.9
食品仕入原価 (当月)	0.6	5.0	66.5	22.4	5.6	6.8

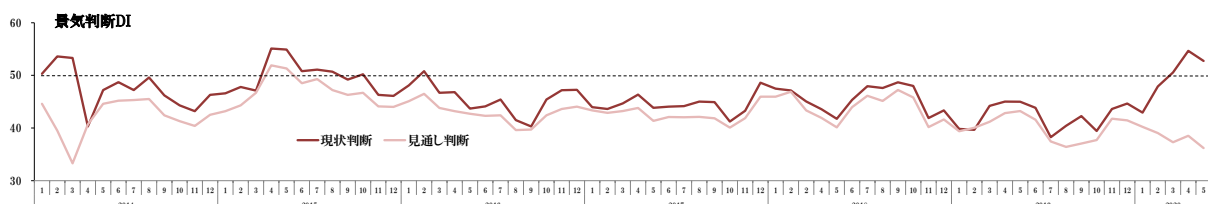


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状、見通しともやや悪化するも、現状判断は 50 を上回る水準を維持

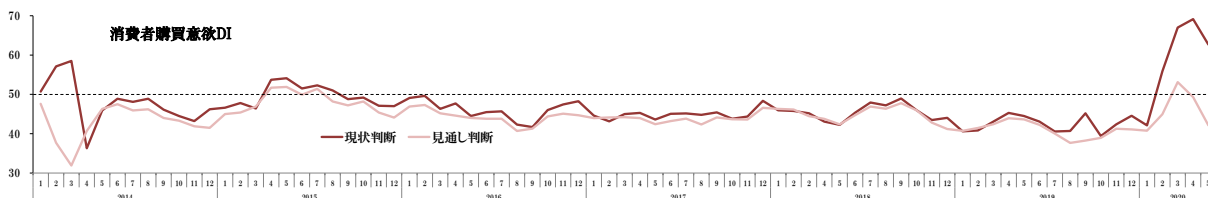
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	9.8	18.6	25.7	35.0	10.9	54.6
【現状】景気判断（当月）	8.5	16.5	36.6	32.3	6.1	52.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	16.9	33.3	30.1	18.0	1.6	38.5
【見通し】景気判断（当月）	14.1	39.9	34.4	10.4	1.2	36.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通しともやや悪化するも、現状判断は 60 代の高水準を維持

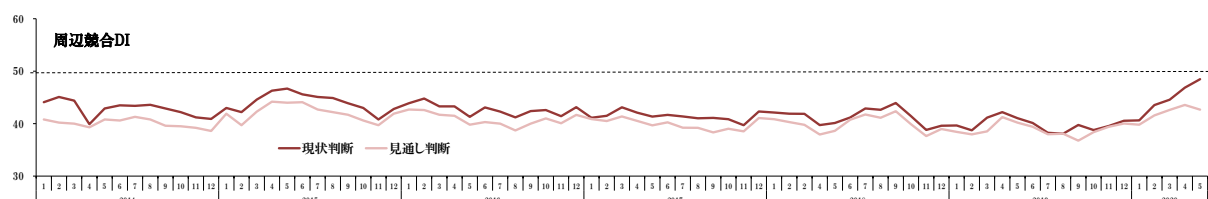
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	3.8	7.1	19.7	47.5	21.9	69.1
【現状】購買意欲（当月）	3.0	10.4	29.3	47.6	9.8	62.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	7.7	24.6	34.4	29.5	3.8	49.3
【見通し】購買意欲（当月）	10.5	32.1	38.3	16.7	2.5	42.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は改善も、見通し判断は小幅に悪化

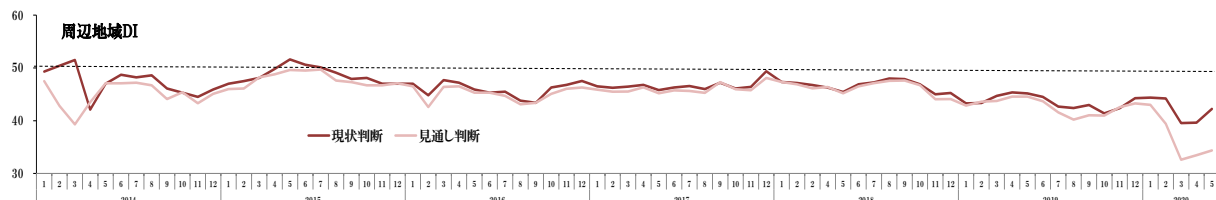
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.9	12.0	74.9	7.1	1.1	46.9
【現状】競合状況（当月）	3.0	9.1	80.0	6.7	1.2	48.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	5.5	19.7	70.5	3.8	0.5	43.6
【見通し】競合状況（当月）	4.3	24.4	68.9	1.2	1.2	42.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断はやや改善も、見通しは厳しい判断が続く

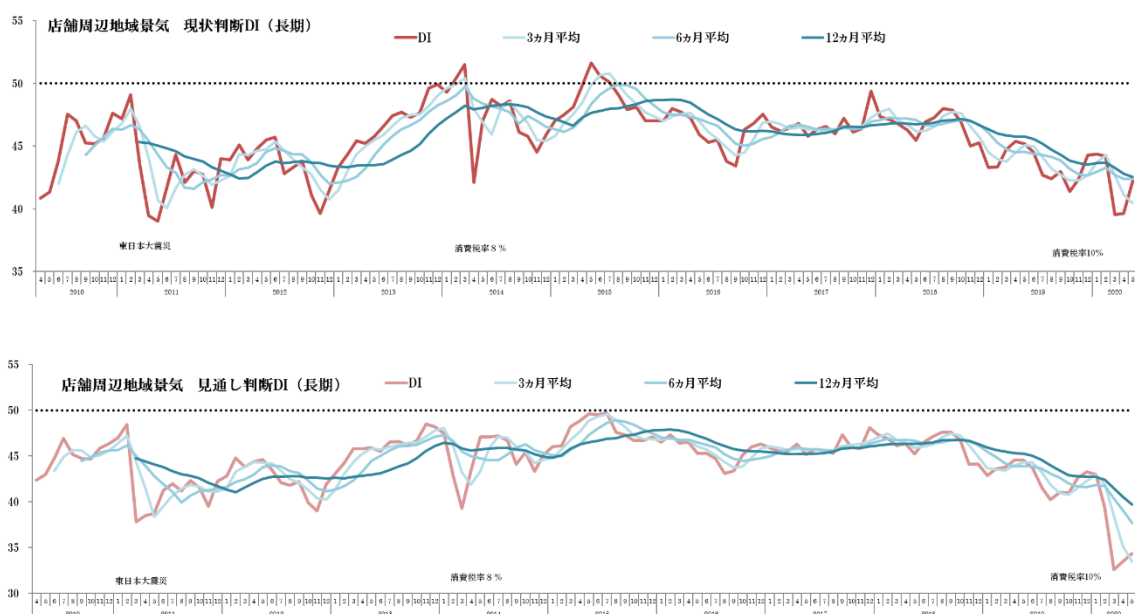
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	13.7	26.8	49.7	7.1	2.7	39.6
【現状】地域景気 (当月)	8.5	26.8	53.7	9.1	1.8	42.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	19.1	35.0	39.3	6.0	0.5	33.5
【見通し】地域景気 (当月)	14.7	38.0	42.9	3.7	0.6	34.4



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向 (2010 年 4 月～)

周辺地域景気判断 DI は、2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷が続いていたが、12 年 11 月から 16 ヶ月にわたる改善が続き、14 年 3 月には現状判断 DI が 51.5 を記録した。14 年 4 月の消費税率 8% への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

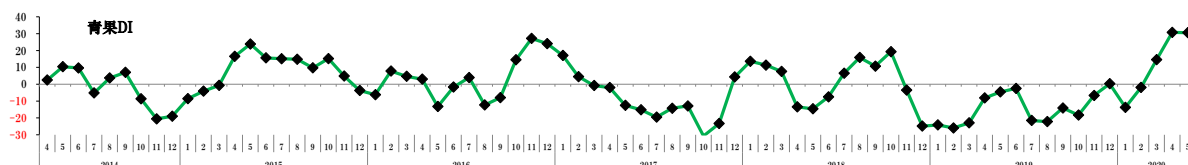
しかしこれをピークに、その後 15 ヶ月間にわたり悪化傾向が続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。20 年 2 月から新型コロナウイルスの影響により大幅な低下がみられたが、5 月にはやや持ち直している。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI : 30.6 (かなり好調)

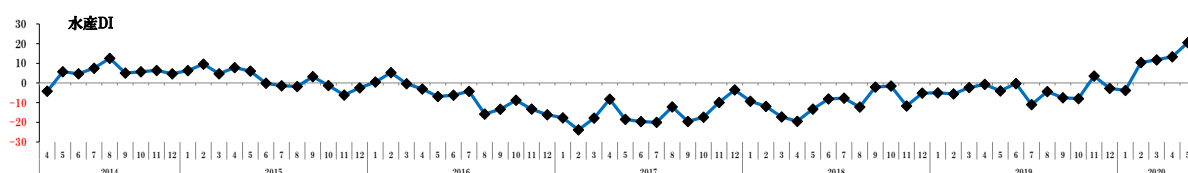
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	3.4	2.8	8.4	38.2	47.2	30.8
青果 (当月)	2.5	3.2	9.6	38.9	45.9	30.6



外出自粛による家庭内消費の増大により、需要が高い状況が続くなか、青果相場が大型野菜を中心に高値で推移したことで一品単価が上昇し、全体としてかなり好調となった。保存期間の長いにんじん、玉ねぎ、イモ類等の土物類の動きがよかった。上旬は全国的に気温が高くトマトやレタスなどサラダ向け野菜が好調とのコメントが多いが、中旬以降は前年より気温が低くなった地域もあり好不調がわかれた。需要が大幅に減少した花カテゴリーは不振となった。果物類は、輸入果物であるバナナやキウイフルーツが好調とのコメントが多い。スイカやメロンはサラダ類同様に地域の気温差により好不調が分かれている。

2. 水産 DI : 20.5 (かなり好調)

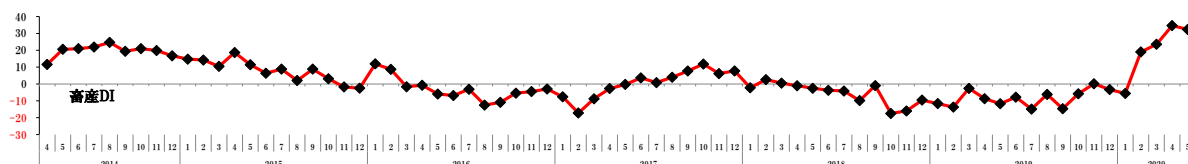
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	6.2	15.2	19.1	38.2	21.3	13.3
水産 (当月)	3.2	12.1	15.9	36.9	31.8	20.5



外出自粛による家庭内消費の増大により需要が高い状況が続くなか、外食営業自粛などの影響で一部ブランド鮮魚の相場に下落がみられ、好調となった。保存可能なむき海老やシーフードミックス等の冷凍商材や塩干類、タコなどの売れ行きがよかった。初ガツオは不漁で入荷量が少なく不振となった。刺身類は、一部に生食を敬遠する動きもみられ好不調まちまちな結果となった。

3. 畜産 DI : 32.4 (かなり好調)

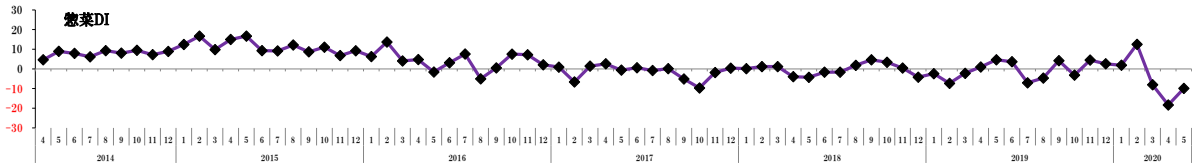
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	3.4	1.1	8.4	27.9	59.2	34.6
畜産 (当月)	3.2	1.9	10.9	30.1	53.8	32.4



外出自粛による家庭内消費の増大により需要が高い状況が続くなか、GW 期間の焼肉や BBQ 需要は減少したものの、牛・豚・鶏肉、ソーセージやハムなどの加工肉すべてのカテゴリーが好調となった。牛肉は外食営業自粛などの影響で、特に和牛相場の下落がみられたことで高単価牛肉が好調となった。豚や鶏肉の一部には欠品もみられたが、炒め物や餃子用など調理用商材の売れ行きがよかった。

4. 惣菜DI：-9.9（やや不調）

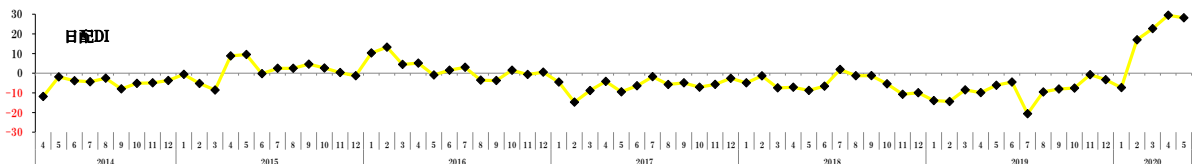
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	24.4	42.6	16.5	14.8	1.7	-18.3
惣菜（当月）	16.7	34.0	26.9	17.3	5.1	-9.9



外出自粛による行楽向け、イベント中止による大人数用惣菜、家庭内調理機会の増加による中食需要の低下、ばら売り販売中止の影響を受け、やや不調となった。引き続き宅飲み機会の増加でおつまみ関連惣菜の動きがよかった。上旬は前年に比べて気温が高く涼味関連の動きがよかった。生食を敬遠する消費者もみられ、寿司類は好不調がわかれている。外出自粛の緩和が行われた月後半からやや持ち直しの動きもみられた。

5. 日配DI：28.2（かなり好調）

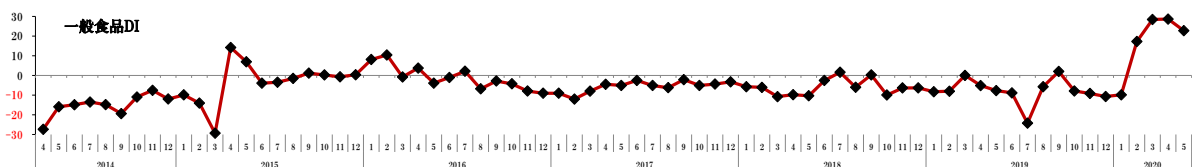
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	2.8	5.1	10.2	35.0	46.9	29.5
日配（当月）	3.2	2.5	12.7	41.4	40.1	28.2



先月と傾向は大きく変わらず、家庭内消費需要が大幅に増加しかなり好調となった。牛乳やバター、チーズなどの乳製品をはじめ、保存可能な冷凍食品やチルド麺やチルドピザ、パン類などが好調となった。免疫力アップとしてヨーグルトや納豆、キムチなど発酵食品が特に好調であり、一部店舗では納豆やバターに欠品が続いた。生クリームなどはお菓子づくりの材料が好調とのコメントもみられた。前年との気温差によりアイス類は動きが悪かった。

6. 一般食品：22.8（かなり好調）

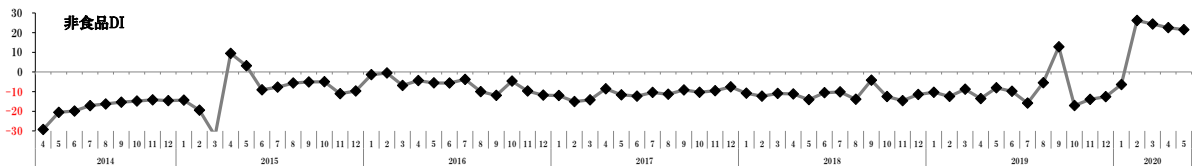
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.5	4.5	10.7	32.2	48.0	28.7
一般食品（当月）	5.0	6.9	15.7	36.5	35.8	22.8



外出自粛により家庭内消費需要が大幅に増加しかなり好調となったが、手作り需要の増大を指摘するコメントが多かった。日持ちする食品として（米、袋麺やカップ麺、レトルト食品、パスタやパスタソース、乾麺・めんつゆ、シリアル、菓子、缶詰）、家庭内での調理用粉物（ホットケーキやお好み焼きなど）や調味料など、ほぼすべてのカテゴリーで非常に好調に推移し、需要の急増により一部商品には、品薄や欠品により機会ロスが発生した。酒類は、行楽需要は減ったものの「家飲み」需要の高まりにより伸びており、チューハイ、サワー類、ワインなどが好調となった。行楽需要の減少や休校の影響による弁当材料向けの食材、外出時の購入機会が多いガム・タブレット類などは動きが悪かった。

7. 非食品 DI：21.5（かなり好調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	8.0	7.5	16.1	23.0	45.4	22.6
非食品（当月）	7.3	9.3	17.9	21.2	44.4	21.5



マスクの入荷がはじまり特需が発生した。感染対策として、ハンドソープ、ハンドクリーム、除菌剤、漂白剤、ウェットティッシュ、炊事手袋などが好調に推移した。調理機会の増加により、ラップや保存パックなどの調理補助品、お菓子づくり用品も好調に推移した。また、在宅時間が増えた影響で、台所洗剤、住居用洗剤、入浴剤などの売上も好調となった。トイレットペーパーやティッシュペーパーなど紙製品の需要も引き続き高い。外出機会の減少により、紙コップや紙皿、レジャーシートなどの行楽用品は不振だった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2020 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1. 巣ごもり消費（外出自粛による家庭内消費の増大）
2. 手作り需要の増大
3. チラシや特売の自粛

（参考）2019 年 6 月調査（5 月実績）キーワード TOP3

1. GW 期間（来客数に地域差大きい、祝賀ムード）
2. 天候要因（気温上昇、好天）
3. GW 後の消費低迷

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5 月実績速報版 180 社
 4 月実績確報版 186 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp